

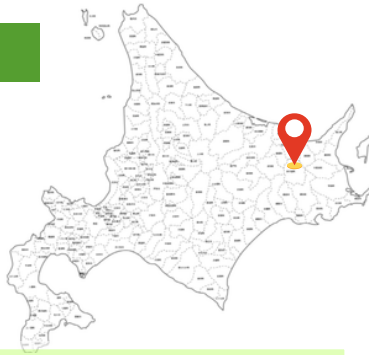
北海道
弟子屈町

ひがし北海道の中央に位置し、阿寒摩周国立公園の雄大な自然が広がるまち。町名は、アイヌ語の「岩盤（テシカ）の上（ガ）」に由来

面積 774.33㎢　**世帯** 3,662世帯　**人口** 6,219人　2026年8月末時点

弟子屈町の沿革

1923(大正12)年に二級町村制を施行し、弟子屈村が誕生
その後、1947(昭和22年)に弟子屈町として町制を施行



包括連携協定

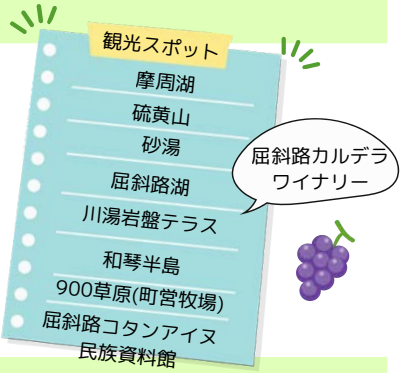
2015年5月22日締結

町内の教育機関

小学校：4校 (192名)　中学校：2校 (111名)
高等学校：公立1校
※ 括弧内は児童生徒数

2026年5月1日時点

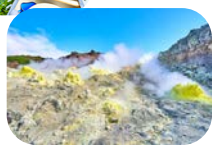
見どころ



東京23区よりも広い弟子屈町内には、日本一の透明度をほこる摩周湖、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖、今なお噴気を上げる硫黄山と麓に広がる特異な自然や温泉など、ダイナミックな自然を感じられる見どころがたくさんあります。町の65パーセントが阿寒摩周国立公園に属しており、摩周第一展望台からは、荘厳な湖の姿と雄大な根釧原野を一望することができます。
夏の盛りには30℃を超える真夏日になることもありますが、白鳥が飛来する冬には、大地を雪が覆い、屈斜路湖は全面結氷することが多く、時には氷点下20℃を下回る厳しい寒さが続きますが、澄みわたった空と真っ白な大地は、とびきりの美しさです。

イベント・レジャー





摩周・屈斜路エリアには、カルデラの底にたまった霧を上から見下ろすことができる展望台がいくつもあり、弟子屈町では6月～10月の期間、早朝に摩周湖にて雲海を見ることができ、1年を通して自然を感じられる様々なアクテビティやエコツアーに参加可能です。
冬ならではの自然現象として「樹氷」や「ダイヤモンドダスト」を見ることができます。また、毎年5月中旬からアトサヌプリトレッキングツアーが開始されます。普段立ち入りが制限されていますが、認定ガイドによるツアーの参加者のみ立ち入ることができます。火山らしい風景や迫力ある噴気孔などを見ることができます。

人気のアクテビティ：カヌー、サイクリング、乗馬、登山、ハイキング、雲海・星空観察

特産品



酪農の他、馬鈴薯・てん菜・小麦・蕎麦に加え、昼夜の寒暖差の大きさと火山活動で形成された水はけの良い火山土壌や温泉熱を活用した果樹栽培が盛んです。
摩周メロン、チーズ、ワイン、摩周そば、摩周和牛、マンゴー、摩周ルビー(イチゴ)

交通アクセス

釧路空港・女満別空港・中標津空港の利用が可能、いずれの空港からも、摩周駅まで車で1時間強
JR釧路駅⇒摩周駅(1時間25分)、JR網走駅⇒摩周駅(1時間45分)

宿泊

弟子屈農場美留和晴耕塾 (最寄り駅：JR釧網本線 美留和駅)





全人教育の理念に基づく
フィールド実習の場

北海道 弟子屈町
Teshikaga Town

弟子屈農場の誕生

玉川大学北海道弟子屈農場は、阿寒国立公園内にある摩周湖と屈斜路湖のほぼ中間に位置し、雄大な自然に囲まれた施設です。1972(昭和47)年に、屈斜路湖畔の50ヘクタール近い土地(現在は演習林用地となっています)を取得し、続いて同年12月に美留和地区の69ヘクタールの土地を取得しました。演習林やその周辺ではエゾシカ、エゾリス、キタキツネなどの動物もおり、豊かな自然環境の中での生態系研究フィールドとして、主に農学部生の農場実習、卒業研究等の拠点となっています。



弟子屈農場建物配置図





弟子屈農場でのブドウづくり

2009(平成21)年頃より、弟子屈町から委託を受けた醸造用ブドウの試験栽培が始まりました。気温が15～20度になる6月中旬ごろから花が咲き始めて結実し、10月中旬に収穫となります。かつて醸造用ブドウの栽培には寒すぎるといわれた北海道ですが、近年では地球温暖化の影響でそれが可能になり、今では国内生産量上位のワイン王国となっています。弟子屈農場で主に栽培されているブドウは「山幸」という品種です。「山幸」は、十勝ワインで有名な池田町ブドウ・ブドウ酒研究所が耐寒性の強い品種をつくるため、醸造用品種「清見」とヤマブドウを交配育種したものです。色が濃く、ヤマブドウを超えるといわれる渋みや深みのある味わい、そしてヤマブドウから引き継いだ酸味の強さが特徴的で、熟成が進むにつれ、よりおいしいワインへと変化します。

美留和晴耕塾

2014(平成26)年に、農場内に宿泊機能を備えた美留和晴耕塾が竣功され、農学部のほか、多くの生徒や学生の教育、研究の場としての活用されています。晴耕塾の建物は、鉄筋コンクリート造2階建、延床面積は672.46 ㎡で、あたたかみのある北欧風のデザインをモデルとしています。内装は、真冬にも建物を利用することを想定し、あたたかみの感じられるデザインとなっています。



コスモス祭 販売品 (2025年実績)

摩周和牛牛まん、弟子屈ポークぶたまん、ジャガイモ各種、弟子屈カレー、大鵬せんべい、摩周湖限定北海道ラーメン、摩周うどん・そば(乾麺)、弟子屈産いちごミルクドロップ、弟子屈いちごのチーズタルト、摩周ルビーいちごキャラメル、まりも茶ん、おこち(おつまみクッキー)、摩周珈琲





2025(令和7)年度 主な交流活動



2025年8月中旬	農学部生産農学科・先端食農学科3年生が選択科目「フィールド実習」に参加
2025年9月16日～18日	イングリッシュウィーク 文学部の学生8名が小中学校での英語授業実践に参加/村越准教授が教員向け研修を実施
2026年2月12日	農学部・農学研究科の学生10名が弟子屈町役場講堂にて研究成果を発表



弟子屈町役場ホームページ

弟子屈なび：摩周湖観光協会ホームページ

2026年10月1日